

教育行政報告

最近の教育行政について報告いたします。

○ 児童生徒の学力の向上とたくましい心と体の育成について

今年度の新入学児童生徒数は、小学校4校で104名、中学校3校では126名で、6月1日現在の児童生徒総数は1,196名となり、昨年度より70名の減となっています。

学校教育の目標を「夢をもち、心豊かで、元気な子どもの育成」とし、「よりよく生きるための基礎となる力」である知識・技能の確実な習得を土台としながら、応用・発展させる力となる「活かす力」を育む学校教育を引き続き推進して参ります。

また、主体的に学習に取り組む態度の向上に力を入れ、将来のにかほ市を担う人材の育成に取り組んで参ります。そのために、今学んでいる内容や学習スキルが将来の自分にどのように役立つかを意識しながら学習に取り組むことができるようにし、本市の児童生徒が将来を生き抜くために必要な知識や汎用的能力を身に付けることを目指します。一人ひとりの「問い」を大切にし、子ども同士で協働しながら課題を解決したり、学習の成果を活用したりすることを通して、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びを進めて参ります。

また、「ワクワク感」「ドキドキ感」「はてなのマークが頭をよぎる」「楽しくて仕方ない」と児童生徒が感じることができる「楽しく学ぶこと」を意識した教育活動を展開できるよう、本年度キーワードに据えたスマイル&リスペクトを意識して教職員等が工夫と改善を進めます。そして、「わかった」「できた」「もっと知りたい」という児童生徒の思いを認めていくことで、自己肯定感、自己有用感の向上を図って参ります。

次に、1人1台タブレット端末のより効果的な活用と児童生徒の「情報活用能力」の育成を推進するため、GIGAスクール構想推進モデル校を核とした

研修を充実させ、ICT支援員、ICTマイスターと連携を図り、日常的なICT活用と情報モラル教育の推進を進めて参ります。

また、仁賀保高等学校やTDK歴史みらい館などの関係機関と連携しながら、プログラミング教育の実践を重ねて参ります。

さらに、本市は、独自に学校指導に卓越した教育指導員のほか外国語活動支援員を任用し、各校のニーズに応じて派遣しております。小・中学校の算数・数学、理科及び小学校外国語、中学校英語の充実を図るため、教科担当とのチームティーチングを通じた児童生徒への指導はもちろん、教師の授業づくりへの助言等、学力向上に向けた取組として十分に力を発揮しているところであります。

続いて、「にかほ地域学」については、保護者や地域住民の力を学校教育に取り込む「コミュニティ・スクール」の機能を活用しながら、ふるさとの自然や歴史、伝統文化、産業等を活かした「学び」を充実させることで、地域とともにある学校の更なる充実に努め、ふるさとに関わる教育を推進して参ります。

各学校では、「総合的な学習の時間」を中心に地域学の指導計画を立て、見学・調べ学習・体験活動などを行っています。その際、専門的な知識をもつ地域の方々に講師としてご協力いただいております。さらに、ジオパーク推進協議会が実施する発表交流会にも参加し、学習成果を地域の方々へ発信する機会としており、今年度は、象潟中学校がこの発表を担当する予定であります。

また、子どもたちの安心安全な学校生活と、個に応じた学びを保障するため、本市では各学校の実情に合わせ、23名の学校生活・学習サポート支援員を適正に配置しております。支援員が一人ひとりの状況に寄り添い、生活面・学習面での支援を行うことで、子どもたちが個々にもつ力を発揮できる教育環境の維持・向上を図っております。

最後に、教育支援センター「ぱすてる」では、様々な理由から登校が難しい児童生徒を対象に、教員免許を有した相談員3名に加え、いじめ・不登校対応の教育指導員1名が、一人ひとりに合わせた学習の場や、豊富な体験活動を提供して、心身のリフレッシュや活力の回復を目指しています。今後もこれらの活動を通して、人との関わりや学ぶことの楽しさを感じてもらいながら、子どもたちの心の不安を軽減し、安心して過ごせる「居場所づくり」を進めるとともに、学校復帰と将来の社会的自立に向けた支援を行って参ります。

○ 各学校のクマ対策について

本市においては、クマの目撃情報が寄せられたエリア内の小・中学校では、安全面を考慮し、登下校時の自家用車での送迎や外出時における注意を喚起する一斉メールを保護者に発信するなどの対応を行っています。全ての児童生徒に熊よけ鈴を貸与するとともに、各学校には熊よけスプレー・爆竹の配布をし、校地が山と隣接する学校については、伐採による緩衝地帯の造成など、安全対策を強化しました。

また、全ての小・中学校がクマ出没時の対応マニュアルを作成し、職員は共通理解のもと、クマ出没等の連絡があった場合には、マニュアルを基本として対処し、児童生徒の安全の確保に努めております。

○ 第14回鳥海山伝承芸能祭について

3月24日に、市内5番楽と由利本荘市3番楽が「鳥海山北麓獅子舞番楽」として、国の重要無形民俗文化財に指定されました。指定証書交付式は京都市で行われ、鳥海山北麓獅子舞番楽由利本荘市保存協議会 藤谷会長と同にかほ市保存協議会 吉川会長が参加しました。

国指定により各団体の熱量が高まる中、例年9月第一日曜日に開催してきた鳥海山伝承芸能祭を、国指定記念として、今年度は6月21日、仁賀保勤労青少年ホームを会場に開催いたします。

地域に根付く伝承芸能の継承を由利本荘市との緊密な連携の下、後継者育成という課題に取り組んで参ります。

○ 白瀬南極探検隊記念館「入館者80万人達成」について

4月12日、白瀬南極探検隊記念館の入館者が80万人に達しました。平成2年4月の開館以来、36年目での記念すべき80万人目の入館者は、仙北市の若生（わこう）さん・安井（やすい）さんご家族で、記念品としてペンギンのぬいぐるみのほか白瀬記念館オリジナルグッズを贈っております。当日は、にかほっぺん、スノーファイターNOBUも駆けつけ、くす玉を割ってお祝いしました。

○ 児童生徒による各種大会等の結果について

4月25日、26日の両日に開催された本荘由利中学校春季大会において、仁賀保中学校ではソフトテニスで男子団体が優勝したほか、個人の部と女子団体、剣道部男子団体、象潟中学校との合同チームとなったサッカー、金浦中学校との合同チームとなったバレーボール、象潟中学校・西目中学校との合同チームとなったバスケットボール男子がそれぞれ第2位となっております。

金浦中学校では、柔道の男子55kg級と男子60kg級で優勝したほか、男子60kg級と男子90kg級において第2位となっております。

また、5月22日に開催された本荘由利中学校陸上競技大会では、仁賀保中学校が学校総合と女子総合で見事3年連続の優勝に輝いており、男子総合においても優勝の成績を収めています。金浦中学校では、女子総合で第2位、学校総合で第3位の好成績を収めています。個人種目では仁賀保中学校が3種目で、金浦中学校が6種目で、象潟中学校が1種目でそれぞれ1位の優れた成績を収めております。

○ 総合教育会議について

5月18日、市長と教育委員会が教育課題等を共有し、より一層、教育行政の推進を図るための「総合教育会議」が開催されました。今回の会議では、部活動地域展開、教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画および小中学校再編計画の3件について、それぞれの進捗状況や課題などを共有しております。

今後も市長と教育委員会が十分な意思疎通を図りながら、教育行政を推進して参ります。

○ 「齋藤宇一郎 生誕160年・没後100年」記念行事の実施について

今年は、「農聖・齋藤宇一郎」の生誕160年、没後100年にあたることから、仁賀保勤労青少年ホームでは、記念の年に合わせて展示室をリニューアルしております。

公益社団法人 齋藤宇一郎記念会では、7月と11月に仁賀保勤労青少年ホームを会場に宇一郎氏を育んだ郷土を学ぶ記念講演を予定しております。また、

由利本荘市で開催される第149回秋田県種苗交換会では、「齋藤宇一郎」を紹介する特設コーナーを設置し、近代農業の黎明期における農村振興に深く貢献した「農聖」としての功績を紹介する予定としております。

このような様々な取り組みは、白瀬南極探検隊記念館、象潟郷土資料館、フェライト子ども科学館及び仁賀保勤労青少年ホームの市内博物館系施設4館が収蔵する資料をアーカイブした「にかほ市デジタルミュージアム」の活用と併せて、市民の郷土愛と知的好奇心の醸成に寄与するものと考えております。

○ 奥の細道サミット in にかほ市象潟について

7月31日から8月1日の日程で、「奥の細道」ゆかりの46の自治体や団体等で構成する「奥の細道サミット」を18年ぶりに本市で開催します。21の市区長と関係機関2団体より約50人が参加予定となっております。

7月31日は、総会のほか、蚶満寺をはじめとするエクスカージョンと交流会を開催します。8月1日は、ホテルエクセルキクスイを会場に、二松學舎大学教授 吉丸 雄哉（よしまる・ゆうや）先生を講師に迎え、「芭蕉忍者説とは何か」をテーマに講演を行います。いままでのイメージを覆す新たな芭蕉像を提示し、郷土の歴史についての興味を深めるため、一般公開としております。

○ 第42回奥の細道象潟全国俳句大会について

8月1日にホテルエクセルキクスイを会場に、子どもの部及び一般の部の選評と表彰式を行うとともに俳誌「郭公」の主筆を務め、全国紙や地方紙における選評のほか、全国の俳句大会において選者を務めている 井上 康明（いのうえ・やすあき）氏を講師に迎え講演会を開催いたします。

また、奥の細道サミットと同日同会場で開催し、その相乗効果により両イベントの更なる盛り上がりを目指すものと期待しております。

「おくのほそ道紀行」の目的地の一つであった「象潟」を市内外にPRすることにより、交流人口の拡大を図り、小・中学生の俳句への関心を高めて参ります。